

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100182		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム ハイブリッジ		
所在地	宇都宮市若松原1-11-10		
自己評価作成日	平成23年9月25日	評価結果市町村受理日	平成23年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の活性化を目指し、毎月定期的に来訪して下さるボランティア(民謡、民舞、日舞、太極拳、歌謡ショー)とのふれ合いや、年3回の大行事(航空ショー、敬老会、クリスマス会)でご家族様や地域の方とのイベント、毎月の行事、外出、外食支援等でもご家族様や地域の方と過ごす時間が多く持てるよう努めています。また、地域との交流を図るため敬老会、運動会、自治会の餅つき大会等に参加したり、地域保育園児とのふれ合い会等で地域との交流を多く持つように努めています。社会との交流や出掛けるためのADLの維持、向上に努め活気ある生活を目標としています。

当ホームは敷地内に「地域交流センター」や「多目的ホール」が併設されており、それらを活用し、積極的にさまざまなボランティアの受け入れをしている他、利用者、職員、家族等や地域住民が自然な触れ合いを通して交流を深めている。また、地域の認知症ケアの拠点として認知用に関する理解や対応の啓発、発信、相談対応等運営推進会議においても活発に意見交換がなされている。ケアに関しては、食事をはじめとする日々の暮らしの中で、利用者が自分らしさを保ちながら自信を取り戻し、感情豊かに過ごせるよう全職員が、傾聴とスキミングを大切に「寄り添うケア」を実践しており、管理者は、家族等との関わりも家族等が「お客様」にならないよう忌憚のない人間関係を保ち、支え合うためのコミュニケーションの促進が、利用者にも反映されると考えている。さらに、職員の資質向上にも力を入れ、内外の研修会への参加や資格取得も積極的に支援している。今後は同業者との交流を通じたサービスの質の向上も視野に入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく元気に挨拶、いつも笑顔で、ゆとりの介護」を理念にかかげ、ホーム玄関、各ユニットのスタッフルームに掲示し、日々の生活支援を行っている。	法人母体の理念をもとに、事業所独自の理念を掲げ、管理者と職員は日々利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識しながら実践につなげている。	利用者のニーズ、事業所の状況変化によって改めて見直しもされ、理念は定着してきている。今後さらに積極的な取り組みにより、地域との関係性も重視しながら広く外部に発信していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム隣接する交流センターがあり、毎月のボランティアの来訪、近隣保育園児との交流、ホーム行事への地域住民の参加や地域行事への参加等を行ったり、廃品回収への協力をしている。	自治会に加入し、地域の小学校の運動会や敬老会に参加したり、月2回の廃品回収に協力している。オーナー所有の多目的ホールや交流センターを中心に、地域のボランティア等の積極的な受け入れをするなど、地域で必要とされる活動や役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム行事への地域住民の参加時や運営推進会議での話し合いや、市の出前福祉講座等でご家族様、地域の方、職員が認知症について共に学んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーの方に、ホーム行事の参加や日常生活を共に過ごして頂き、利用者様やサービスの実態をみて頂き意見を伺ったり、状況報告をして話し合いを行いサービスの向上に努めている。	会議をホーム行事と併せて開催していることから、家族等や地域住民の参加も多く、活発な意見交換がなされている。ホーム側からも、日々の利用者の実情を詳細に報告することにより、参加者から率直な意見をもらい、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の一員として、地域包括支援センター担当者に出席して頂いている。また市町村会議開催への参加や窓口で直接相談を行ったり、指導、助言等をして頂いている。	市町村や地域包括支援センター主催の会議には積極的に参加し連携を図っている。管理者だけではなく各フロア一長等も市の窓口に出向き、相談や報告をしながら運営や町工面しているサービスの課題解決に向けて協働関係を築いていけるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関し定期的に施設内研修の実施、マニュアル作成し、身体拘束の弊害について理解を高め、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。玄関施錠に関しては前回は指摘され、時間を決めて自由に屋外の出入りができるよう取り組んでいる。	マニュアルを作成し、それに基づいた法人や施設内研修を定期的実施している。玄関施錠については、敷地内に可動式のフェンスを設置し、時間により自由に入出入りが出来るよう改善された。利用者の思いに添った外出支援に取り組んだり、協力医療機関の医師の指導によるドラッグロックの改善等により利用者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除くケアを実践している。	

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々常日頃から各職員にチェックを入れて、あるまじき行為があれば、その場で注意、説明し理解をさせている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関し全職員が理解しているとは言いが、必要な利用者様には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族様の意思を尊重し、体験入居時や契約前、契約時、解約または改定等に必要事項を説明し、理解、納得をして頂けるよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは普段よりコミュニケーションを図り、意見、要望等は随時耳を傾け、ご家族様は面会時、行事時、運営推進会議等で意見、要望を聞き相談、話し合いをしそれらを職員に報告し、運営に反映させている。	利用者本人が意見や思いを伝えられるような機会を日常的に作り、全職員は傾聴を大切にしている。家族等からのアンケートにより指摘があった職員の接遇に関しても、管理者が中心となって意識改革を行った。家族等とも忌憚のない話し合いをするなど、コミュニケーションを重視した関係を築きながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全職員会議での意見、情報交換や各ユニットの日常的な意見、要望に耳を傾け、話し合い、相談を行い代表者に伝えより良い回答が得られるよう努めている。	全体会議やユニット会議、申し送りノート等により、職員からの意見や要望は積極的に受け入れる機会を作り、法人本部に伝えている。特に管理者は、法人の方針と現場職員の意見の調整にも努めている。	職員の意見を聞く機会を持つたり、言いやすくする工夫はされているが、各自が一層の向上心を持ち、やりがいのある職場環境にするためにも、さらに踏み込んだ意見を聞くことのできる体制作りを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部で行われる毎月の管理者会議や本部職員来所時に意見、要望を伝え、職員が働きやすい職場環境が整うよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた外部研修の参加や、社内研修等の勉強会を定期的実施したり、資格取得の推進を行っている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事へ利用者様、職員が参加し交流する機会を持ち始め、これからは勉強会の参加等も行いサービスの質の向上を図りたいと思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握することも大切だが、利用者様の現状の辛さ、不安、又認知症の方については特に興味のある話題など親近感を持って頂くよう、常に情報源を持つようにしている(たとえば言葉の訛りから、地域性を察知するなど)体験入居の実施を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談時や体験入居時等で認知症のご家族の苦勞、辛さを傾聴し共感する。初回では不安や困っていることが中々言えないご家族もいる。ご家族の立場を理解し信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の意向を十分見極め、意思疎通を図り、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴をもとに、職員自らが進んで日々の暮らしに役割がもて、自信に繋がるような支援に努め、信頼関係の構築、家族の一員となるよう接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の他受診時にご家族様に同行して頂き、又日常の様子を伺いに面会に来られたり、盆、暮れにはご家族様と過ごしてもらえようお願ひしている。ホーム行事等に参加し一緒に楽しんで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問にはいつでも気軽に来所して頂けるように、声かけや行事の説明を行っている。	本人が築いてきた人間関係が途切れることがないように本人を支えながら積極的なアプローチを大切にしている。地域で暮らしていた時の馴染みの人が自転車で訪問してくれた時などは、ホームの行事への参加を呼びかけたり、職員手作りの弁当持参で市内の名所旧跡等に出かけて、馴染みの場から離れないよう努めている。	

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の助け合いの場面や、思いやりを職員が個々の関係を把握し、利用者様間に入りコミュニケーションを多く取れる状況を作り、孤立せずに関わり合い、支え合うよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も介護に対する悩みや、その後の転院先のアドバイス等を行い、気軽に来所されたり電話等で情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の日常会話の中で希望や意向を聴き出したり、その方の行動や言動などから汲み取ったり、意思疎通が困難方にはご家族様から情報を得て、本人本位になるよう検討している。	利用者の言葉や思いを日々の行動や表情から汲み取り把握するよう努め、また、家族等からの情報も大切にしている。入浴介助や夜勤時に一人ひとりと膝を交えてゆっくりと向き合い、寄り添う姿勢を大切にケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、ご家族から生活歴等の情報収集、利用者様との日常会話の中から情報を得て、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者様のペースを把握し利用者様を尊重し、共に役割(料理の準備、洗濯干し、畳み、掃除等)の持てる支援に努め、日常生活においても小さな変化に気配りし、連絡帳や記録に詳細に記入し職員間で情報の共有、統一した支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記同様、日常生活の中で職員一人ひとりが利用者様との関わりの中で課題、要望を把握し申し送り、連絡帳等で情報の共有を図り、ご家族様の面会時に日常の様子を伝え要望を伺ったり、毎月のモニタリングの実施やサービス担当者会議で話し合い介護計画を作成している。	介護計画作成時には、本人・家族・担当職員が会い、アセスメントやモニタリングの記載された連絡帳をもとに、本人の視点にたった支援を盛り込んだ計画を立てている。ADLや思いの変化など日々の小さな変化にも柔軟に対応し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の生活記録に日々の小さな変化を記録したり、申し送り、連絡帳を活用し情報の共有を図り、状態変化に応じた介護計画の見直しを行い実施している。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、買い物、外出、他医療機関受診の同行等、ニーズに副ったサービス体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流、近隣保育園児との交流、地域民生委員との関係持続、消防署による火災予防訓練の実施や図書館へ行き利用者様の好きな本を借りてきたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師をご本人、ご家族了承の上かかりつけ医としているが、希望がある場合はその限りではなく、他医療機関に受診して頂いている。	入居時に本人・家族等の同意と納得のうえ、ホームの協力医療機関の医師をかかりつけ医としてもらっている。他のかかりつけ医を希望する場合でも、職員が通院介助をしたり、情報の共有を図りながら関係を密に結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師はいないが、協力医療機関の医師の指導も下、往診前に利用者様の情報を提供したり、状況変化時に適切な指示、受診が受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けた話し合いを、病院関係者やご家族様と行っている。入院時には介護サマリーを作成しホームでの生活がわかるよう情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調悪化した場合の相談や受け入れ先等を、早い段階からかかりつけ医と話し合い、ご本人、ご家族とその時の状況を共有している。緊急時対応の手順、通院、受診時のマニュアルに従って対応している。	医療連携体制により、協力医は夜間や緊急時の対応もしてくれているが、これまで看取りは行っていない。重度化に伴う意志確認書は作成していないが、本人や家族等が安心して納得した最期が迎えられるよう、医師、職員が情報を共有しながら連携をとり随時意志確認をしながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修や応急処置マニュアル、緊急時対応の手順を作成し、急変時、事故発生時の対応にあたっている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の方と共に防災避難訓練を全員参加で実施、夜間時に備えての少人数での避難訓練の実施も行っている。自衛消防活動にて安全管理に努めている。地域の方の参加をお願いし緊急避難所として利用して頂くよう話している。食料品の備蓄も行っている。	定期的に防災避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練では問題点も明確になってきた。ホームを地域の緊急避難所として利用してもらうことや、地域住民の訓練参加について運営推進会議で話し合わせ、実施に向け検討している。非常用食料・備品は今回の震災で利用され、見直しや追加も視野に入れている。	職員連絡網や家族の緊急連絡先は、全職員が分かるように整備している。さらに災害時の役割分担を事前に決めたいので、実践的な訓練を行い、職員の不安軽減を図れる様、今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも本人の気持ちを大切に考え、さりげない支援を心掛け自己決定しやすい言葉かけに配慮し、本人のペースで生活が出来るよう努めている。記録等は事務所にきちんと管理している。	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保については、管理者が中心となって全職員が接遇の向上に努めている。個々の思いを汲み取り、自己決定しやすい言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の気持ちを尊重しており、わかりやすい言葉かけ、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であるため希望に副えない事もあるが、一人ひとりのペースに合わせるよう心がけ、ゆっくりでも自分で出来る事を重視している。出来る限り個々のペースを優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行ったり、理、美容師の資格を持った職員がカットしたりと本人の希望に合わせて、1~2月に1度程度行い、季節に合わせての整容にも気配りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりのできることを引き出し、調理の下ごしらえを一緒に行ったり、お茶入れ、配膳、後片づけ等を一緒に行っている。各ユニット同じメニューであるが調理方法は各職員のアレンジが活かされ、職員も同じものを一緒に食べている。	献立は法人の管理栄養士が立てているが、各ユニット毎に職員のアイデアを活かした食事を提供している。職員の見守りや支えにより、利用者本人も食事に関する一連の作業で持てる力を発揮している。職員と利用者は同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら、「普通の食事」ができる喜びを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは他事業の管理栄養士が作成のため栄養バランスは良い。個々の状態や医師の指示のもとに栄養、水分量等を調整し、毎食後チェック表に記入している。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自分で出来ない利用者様とは一部介助で共に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導時の声かけに配慮し、リハビリパンツ、パット使用者にも排泄間隔の把握、排泄サインを察知し利用者様の身体機能に応じて、声掛け、誘導を行いトイレにて排泄を行っている。	一人ひとりの排泄習慣やパターンに応じた個別の支援を心がけ、サインを把握し、あからさまな誘導ではなくさりげない声かけを行っている。夜間は定時に声かけや見守りをしたり、ポータブルトイレを使用するなど柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの体調に合わせた調理を心掛けると共に水分の適正補給に努めている。車椅子の方も椅子に移乗し、腸内運動が活発化するようまた、日々のラジオ体操、散歩等で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は本人の意向を聴き柔軟に対応している。時間帯は主に午前中に実施しているが、本人の希望時間に応じ対応している。皮膚疾患等のある方は毎日入浴し状態を把握している。季節に合わせてユズ、バラ風呂を楽しんでいる。	前回の評価をふまえ、ユニット毎に利用者個人面談を実施し意向を確認したり、家族等とも相談しながら個別の入浴支援をしている。在宅からホームに入居された方の入浴拒否があったことから、本人の習慣や希望を考慮して負担感のない入浴支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安眠できるように生活習慣を尊重し、室温、衣類、寝具等の調整し本人の希望にそってゆっくりと休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後毎に薬と水を用意して、各利用者様の名前をその都度確認して服薬介助を行っている。処方箋にて用法、要領を承知し、薬の変更があった時はきちんと申し送り症状の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴を知ることで、昔やっていたことや得意だったことを暮らしの中に活かせるようにしている。個々に合った役割(掃除、調理の下ごしらえ、洗濯干し、畳み等)を持ち、嗜好品も各自把握し生活を共にしている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出希望(近所のスーパーに買い物、散歩、墓参り)にも出来る限り応じている。季節を感じる外出(お花見、紅葉等)や外食支援等で社会的参加が図れる支援を毎月実施している。家族同伴の外出も実施している。	ユニット毎に利用者と職員が相談しながら季節に応じた外出を計画し、家族等にも積極的に声かけし、戸外での楽しみを共有している。又、本人の思いに添って墓参りや編み物の好きな利用者や毛糸を買いに行くなど、個別の外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や能力に合わせて、お金の所持を一部行っている。管理の出来ない利用者様には外出時に支払い等を自分でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望があれば手紙、電話等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、楽しく、落ち着く、家庭的な空間を目指し配慮しています。フロアの共有テーブルには季節の花を飾ったり、皆さまで協力した創作活動作品等を飾って季節感のある共有空間づくりをしている。	共用空間はユニット毎に利用者と職員の手作りの作品や季節の植物等が飾られている。天窓からの採光や空調は、利用者が居心地良く過ごせる空間づくりとして活用されている。また、利用者が自然に集まってくるような安心感のある温かい雰囲気の間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室はプライベートが守られている。共有のフロアでは気の合った利用者様同士での会話や音楽、テレビを楽しめる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で落ち着いた生活が送れる様、馴染みの家具や装飾品を持ってきて頂いている。またイベント時の写真を飾ったり、時節の創作物を居室に飾っている。	プライバシーを大切にしながら、馴染みの物を活かしたその人らしい居室になっている。季節毎に寝具や衣類の交換は家族等と共に行い、環境整備にも充分配慮した支援を実践している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所を解りやすくするために、居室入口に名前を大きく書いたり、トイレ、浴室には案内標識を設け解りやすく自立した生活が送れる様環境整備に注意を払っている。		